

## 平成22年度新生児聴覚検査実施状況のまとめ

平成23年10月

鳥取県福祉保健部子育て王国推進局子ども発達支援課

### 1 新生児聴覚検査実施状況

#### (1) NICU入院児を除いた状況

##### ①圏域別実施状況

平成22年度は、西部圏域において新生児聴覚検査の実施産科施設が1箇所増え、県内の分娩取扱産科施設17箇所のうち、検査実施施設は16箇所となった。

検査実施状況は、東部及び西部での実施率が95%を越えているのに対し、中部圏域の実施率は79.8%と依然として低いが、昨年度に引き続き実施率は上昇している(H20年度68.6%、H21年度77.0%)。県全体の実施率は昨年度と比べ、わずかだが上昇している(H20年度89.4%、H21年度92.8%)。

県のマニュアルでは、入院中検査でリファーであった場合、1か月健診時に確認検査を行い、確認検査でリファーであった例を精密検査機関に紹介することを推奨しており、平成21年度においては、全ての施設において手引きの流れに沿った検査を実施しているが、平成22年度は確認検査を行わずに精密検査機関へ紹介している施設もある。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査		精密検査紹介数		
	医療機関 出生児数	検査 件数	実施率	パス	リファー	リファー 率	パス	リファー	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	その他
東部	2,152	2,048	95.2%	2,022	26	1.27%	16	10	10	0	0
中部	857	684	79.8%	679	5	0.73%	3	2	2	0	0
西部	2,219	2,154	97.1%	2,133	21	0.97%	10	10	11	0	0
合計	5,228	4,886	93.5%	4,834	52	1.06%	29	22	23*	0	0

\*うち1例は1か月健診の確認検査前に精密検査機関へ紹介。

##### ②検査機器別実施状況

県全体としての検査機器ごとのリファー率は下表のとおりである。(併用はAABRに計上)

検査実施16施設のうち、AABR使用は10施設(62.5%)、OAE使用は4施設(25%)、併用2施設(12.5%)である。

検査機器	検査件数 (B)	リファー (C)	リファー 率 (C/B)
AABR	3,656	18	0.49%
OAE	1,230	34	2.76%
23年度合計	4,886	52	1.06%
(参考)22年度合計	4,735	37	0.78%

(2) NICU 入院児の状況

中部及び西部に対し、東部における実施率が低くなっている。

圏域	検査実施状況			検査結果			精密検査紹介数		
	医療機関入院児数	検査件数	実施率	パス	リファー	リファー率	県内耳鼻科	県外耳鼻科	その他
東部	262	218	83.2%	212	6	2.8%	6	0	0
中部	107	105	98.1%	101	4	3.8%	3	0	1
西部	240	240	100.0%	234	6	2.5%	6	0	0
合計	609	563	92.5%	547	16	2.8%	15	0	1*

\* 1 か月健診を他施設で受診のため、その後の紹介先不明。

(3) 新生児聴覚検査実施のカバー率

NICU も含め、県内の新生児聴覚検査実施産科施設全体の検査実施率は下表のとおりであり、この数には県外からのお産も含まれている。平成 22 年度の県内出生数は 4,793 人である。

年度	医療機関出生児数	検査件数	実施率
22年度	5,837	5,449	93.4%
(参考)21年度	5,608	5,205	92.8%

## 2 精密検査実施状況

(1) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

精密検査で正常とされた、いわゆる偽陽性は OAE では 14 例中 5 例 (35.7%)、AABR では 18 例中 5 例 (27.8%) であった。

	スクリーニング結果					精密検査結果			
	県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	検査機器	結果	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	32	1	AABR	一側リファー	8	4	2	2	
				両側リファー	10	0	7	3	
			OAE	一側リファー	9	1	5	3	
				両側リファー	5	0	3	2	
合計					32+1*	5	17+1*	10	0

\* 県内小児科からの紹介の 1 例について、新生児聴覚検査の検査機器不明。

②難聴児の聴力の内訳と紹介件数

両側難聴と診断された18例のうち3例が県内の聾学校へ、うち1例が県外の難聴児教育施設へ紹介された。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数		
				県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
全県	軽度難聴	4	13	3	1	1
	中等度難聴	1	2			
	高度難聴	0	3			
合計		5	18	3	1	1*

\*その他の1件は補装具の意見書記載後、不明。

(2) NICU 入院児の状況

①実施状況

精密検査で正常とされた、いわゆる偽陽性は5例中1例(20.0%)であった。

	県内産科からの紹介	県外産科からの紹介	スクリーニング結果		精密検査結果			
			検査機器	結果	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	5	0	A A B R	一側リファー	2	1	0	0
				両側リファー	0	2	0	0
合計					2	3	0	0

②難聴児の聴力の内訳と紹介件数

両側難聴と診断された3例のうち2例が県内の聾学校へ、一側難聴と診断された2例のうち1例が県外の難聴児教育施設へ紹介された。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
				県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
全県	軽度難聴	0	1	2	1
	中等度難聴	1	0		
	高度難聴	1	2		
合計		2	3	2	1

### 3. 市町村及び保健所訪問指導実施状況

ケース6は保健所の事例であり、それ以外はすべて市町村の事例である。

また、ケース8及びケース10以外は、新生児訪問の際に保護者から受けた相談である。

[東部] ケース1：新生児聴覚検査で両側リファー。6か月健診で補聴器を使用。保健師による支援を継続。

ケース2：新生児聴覚検査でリファー。母親は落ち着いて受け止めている様子のため、精密検査の結果を踏まえて支援を行うこととした。その後、医療機関から聾学校を紹介され、定期的に通われている。

ケース3、4：(同様のケース 2件)

新生児聴覚検査がリファーで再検査と言われた。母親は落ち着いていたため、後日、育児相談会で検査結果(パス)を確認し、助言終了。

ケース5：要精密検査と言われ、母親が強い不安を感じていたため、保健師による支援を継続。

ケース6：(保健所分)

新生児聴覚検査で一側リファー、精密検査でパスできず、再検査予定。母親に大きな不安はみられないため、助言終了し、居住する自治体へ情報提供。その後の健診では問題なし。

[中部] ケース7：難聴の疑いがあり、精密検査予定。聾学校についても紹介し、保健師による支援を継続。

ケース8：新生児聴覚検査実施産科施設から、要精密検査となった児について、電話と様式5-1「新生児聴覚検査育児支援連絡票」により、連絡が入る。保護者に精密検査受診を促す等、保健師による支援を継続。

ケース9：新生児聴覚検査が要再検査であったと保護者から不安を訴えられ、保健師による支援を継続。1か月後の再検査結果はパスであった。

[西部] ケース10：3～4か月健診時に医療機関で難聴と言われたと相談を受ける。聴覚検査を継続して受診中。母親はショックが大きい様子のため、受診結果の相談等、保健師による支援を継続。母親から保育士にも検査結果を話していたため、保育園も交えて今後の対応等について話をしていく予定。ひまわり分校についても説明予定。

区分	相談件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪問での相談	健診・予防接種等の場	その他の経路による相談	電話相談
		新生児スクリーニング実施医療機関から	聴覚精密検査実施医療機関から	保健所から	その他の機関から				
東部圏域市町村・保健所	6	0	0	0	0	6	0	0	0
中部圏域市町村・保健所	3	1	0	0	0	2	0	0	0
西部圏域市町村・保健所	1	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	10	1	0	0	0	8	1	0	0

#### 4. 療育・教育指導実施状況

県内精密検査機関から聾学校へ5名の紹介があった。

その他、保護者が以前から早期支援施設として聾学校を知っていたことから直接来校した例が1例あった。なお、この例については、居住する市町村の保健師による支援も入っている。

療育・教育機関	人数	紹介者		
		耳鼻科医	保健師	その他
聾学校	6	5	0	1 *
その他	0	0	0	0
合計	6	5	0	1 *

\*その他の1例は、直接来校。